

# 令和5年度病害虫発生予察情報 発生予報第15号(3月)

令和6年3月7日  
発表：福島県病害虫防除所

## 1 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	リンゴハダニ	全域	—	やや少ない	越冬卵が確認されたほ場の割合は、平年よりやや低かった(—)	発芽1週間前までにマシン油乳剤を遅れないように散布する。 農業総合センター果樹研究所発表の果樹の生育概況(令和6年3月1日現在)によれば、リンゴ「ふじ」の発芽は、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合3月23日(平年比4日早い)と予測されている。
モモ	せん孔細菌病	中通り	—	平年並	春型枝病斑の発生予測モデルによると、発病枝率が2%以上となるほ場割合は、平年よりやや低いと予測されるが、前年秋期の新梢葉での発生ほ場割合は平年並(±)であったため、越冬量は平年並であると考えられる。	春型枝病斑は見つけ次第せん除し適切に処分する。 開花直前及び落花直後の防除を徹底する。
	モモハモグリガ	中通り	—	平年並	越冬成虫が確認された発生地点割合は平年並であった(±)。	初期の発生密度を抑えるために、第1世代幼虫発生期(落花10日後)にネオニコチノイド剤を散布する。
	シロカイガラムシ類	中通り	—	平年並	前年秋期の側枝寄生の発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	発芽前にマシン油乳剤を遅れないように散布する。 農業総合センター果樹研究所発表の果樹の生育概況(令和6年3月1日現在)によれば、モモ「あかつき」の発芽は、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合3月19日(平年比5日早い)と予測されている。
	コスカシバ	中通り	—	やや少ない	前年秋期の発生ほ場割合は、平年よりやや低かった(—)。	発生が多い場合は、樹幹及び主枝に殺虫剤を散布する。また、4月以降随時、幼虫を捕殺する。

ナシ	黒星病	全域	—	やや少ない	鱗片における越冬病斑の発生ほ場割合は、平年より低かった(—)。前年10月中旬以降、秋型病斑の発生が確認された(±)。	<p>発芽10日前までに粗皮削りを行ってから、温暖無風の日に石灰硫黄合剤を遅れないように散布する。なお、発芽1週間後以降の生育期の防除は、天候や生育状況に注意しながら、防除タイミングを逸しないように実施する。</p> <p>ハダニ類の発生が多い場合は、石灰硫黄合剤にかえてマシン油乳剤を散布する。ただし、樹勢低下した樹には使用しない。</p> <p>農業総合センター果樹研究所発表の果樹の生育概況(令和6年3月1日現在)によれば、ナシ「幸水」の発芽は、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合3月27日(平年比5日早い)と予測されている。</p>
	ハダニ類(リンゴハダニ・クワオオハダニ)	全域	—	やや少ない	越冬卵が確認されたほ場の割合は、平年よりやや低かった(—)。	

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(—)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病害虫防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。